

令和4年度 調布市立神代中学校 学校評価報告書（学校長 馬場 誠）

学校の教育目標

- 自ら学び、考える人になろう
- 礼儀を重んじ、思いやりのある人になろう
- 骨身惜しまず、働く人になろう
- 体を鍛え、健康な人になろう

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

学校教育の基盤には信頼し合う関係がある。生徒は教員を信頼することで確かな学力を身に付ける。逆に言えば、信頼のないところから学力向上は望めない。同様に、保護者・地域の信頼が学校を支え、学校はその信頼に応えようと充実した教育活動を展開する。このような信頼関係が学校現場から失われることがないよう、日々確かな教育活動を行うことを学校経営の要としたい。本校は伝統校であり、勤勉で礼節があり基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多い。一方で、支援を必要とする生徒の学びをどう保障するか、コミュニティ・スクール発足に向け、地域とともにある学校づくりをどう進めるか、新しい時代に対応できる教員の育成をどう図るか等、さまざまな課題がある。以下の方策を通じて課題解決を行い、信頼の絆をより強くしていきたい。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
	(1) 具体的な取組 ①道徳の授業を通し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ②豊かな人間関係を育むとともに人権尊重の精神を養い、いじめを防止する。	(1) 具体的な取組 ①ICT の活用により個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。 ②学校支援の体制のもと、取り出し授業、補習など補充的な学習を推進する。	(1) 具体的な取組 ①委員会活動を通じ健康を維持する生活環境を作る意識を育てる。 ②授業、部活動、行事等を通じ、スポーツや運動に親しむ態度を育成する。
	評価 B B	評価 B B	評価 C C
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	①道徳の授業で人の生き方、社会の関わり方を考えたとき回答する生徒が86%いた。感染症拡大防止のため授業公開はできなかったが、生命の尊さ等について深く考えさせることができた。 ②特に性暴力に関し臨時朝礼を開いたり、「性教育の授業(1年)」を実施したりして、生命の大切さや互いを尊重する精神について深く学ばせる機会をもった。	①授業でICTを有効に取り入れていると回答した生徒が87%もいるが、ある単元に集中して使用するということが多く日常的な活用に課題が残る。 ②教室に行きづらい生徒のためのステップルームで学習支援員等による学習補助を行い、学習に対する意欲や態度を養った。長期休業日を利用した補習授業を一部の教科で行えた。	①美化委員、保健委員会、給食委員会等の生徒による日常の活動の中で環境や食生活を整える取組はよく進めたが、的を絞った特質すべき取組にはつながらなかった。 ②運動の部活動では、多くが市やブロック大会の優勝を含む上位入賞を果たし、意欲的な生徒が多かった。都体カテストでは「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」が全学年で低かった。
学校関係者評価	・今はインターネットなどから情報が入りすぎる時代なので、性に関することや人権を尊重する精神について、生徒たちに学ばせることはとても有効に思う。 ・学習指導要領だけでは学べないことも、性教育の授業として産婦人科医から学ぶことでより実感させることができたのは有意義だった。	・ICT関係の仕事をしている地域の人の力を借りて、教員の研修のお手伝いなどもできるかもしれない。 ・生徒がICTを使うことはいいが、一方でそれに頼るあまり体験的な活動や人と人が直接対話する活動などが疎かにならないようにしてほしい。	・体力低下の背景には、コロナの影響で体力をつけるべき年代に十分な取組ができなかったことがあるのではないかと。 ・大規模校で生徒数が多いので、校庭などのスペースや使用できる時間帯に普段から制限があるため、十分な運動ができない状態にあると思われる。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 SDGs への取組	6 教員に求められる資質能力
	(1) 具体的な取組 ①学校の教育活動について積極的に情報発信を行う。 ②地域コーディネーター(以下地域CN)を活用し、学校支援の体制をつくる。	(1) 具体的な取組 ①SDGsの理解を深める授業を行う。 ②各教科等でSDGs教育推進校としての成果を踏まえた授業を行う。	(1) 具体的な取組 ①指導と評価の一体化を進める。 ②危機管理における緊急時の対応能力を習得する。
	評価 B A	評価 A B	評価 C A
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	①学校だよりや学年だよりなどで情報発信を行い、94%の保護者がよく確認していると回答している。ホームページを通じた情報発信も行ったが、更に更新数を高める工夫をしたい。 ②1年職場インタビューの際、地域CNの紹介で50数件の職場に協力していただけだ。学習支援員や部活外部指導等に関しても地域CNの支援があった。	①6/29にオンラインでユニセフによる講演を行い、また、3学期に新聞を使った調べ学習を全クラスで行い、SDGsに対する理解を深めた。 ②授業でESDの視点を取り入れた教員が74%いるが、教科横断的な学習としての取組は十分でない。	①授業改善チェックシートを活用し教員自らが授業を振り返った。導入の工夫等に関し意識は高い。対話型の授業に関しては課題が残る。 ②4/4、8/31に全教員で具体的な場面をシミュレートしたアレルギー研修を行い実践的な対応力を高めた。
	評価 B A	評価 A B	評価 C A

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に関しては顧問の異動によりその部活の存続が難しいケースが毎年問題となるが、地域移行によって活動の持続可能が期待できる。今後はそういった地域の支えが求められる。 ・ホームページ作りにも地域の支援を活用することが考えられるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の学習をする一方で、日常的にSDGs を意識した活動があるといい。 ・次年度はSDGs から発展して人権に関する取組を重点化するそうだが、生徒たちが互いに対話しながら主体的に取り組めるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちが生徒に興味を湧かせるような工夫を考え、よくやっているのが素晴らしいと思う。 ・生徒どうしが自由に意見を述べ合えるような対話する力を身に付けられるように、教員も今後研修を積むとよいと思う。
---------	--	--	--

人材育成・組織運営	
自己評価	<p>○経営支援部が中心となり、教科ごとに相互に授業観察を行い、授業改善につなげた。時間割が合わなかったり、行事が重なったりしたため、十分な取組にはならなかったため、次年度は工夫が必要である。</p> <p>○10/18 に働き方改革を進める先進校の担当者を招き校内研修を行い、効率的な業務の工夫などについて学べた。ICT を活用した業務の効率化について更に推進したい。</p> <p>○起案の決済手続きを確実にを行うことにより、責任の所在、命令系統、取組の見通し等をあいまいにしない、組織的な取組を行えるようになった。</p>
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革には、教員の業務を効率化するようなICT環境を整えることが不可欠だろう。市内でICTに関するそのような設備を整え、採点や事務処理など教員にかかる負担を軽減させることはできないだろうか。特に本校は大規模校であるため、事務的な作業が多く、教員への負担は大きい。事務作業を減らし、その分、教員が生徒と向き合う時間を多くすることが大切だろう。

中期的な経営目標の達成状況
<p>① 「特別の教科 道徳」を要としながら、学校の教育活動全体を通じ、他者を尊重するなどの道徳性を養う。</p> <p>→ いのちの授業や生命の安全教育などを通じ、自己を大切にし、他者を尊重する道徳性や人権意識を養った。</p> <p>② ICT を積極的に活用するとともに、学校支援の体制を有効に機能させ、だれ一人取り残されない、個に応じた指導を進める。</p> <p>→ ICT を活用した授業が定着してきたが、個別最適な学びにつなげるには更に指導方法の工夫が必要である。</p> <p>③ 健康を維持する環境づくりという視点で学校生活を向上させる力を養う。また、運動やスポーツに親しむ態度を育てる。</p> <p>→ 生徒たちは日常的に物を大切に扱ったり、整った教室環境を心掛けたりできている。運動の部活動は目標をもってよく励んでいる。</p> <p>④ 学校の教育活動について発信し、保護者・地域と情報を共有する。また、地域コーディネーターを活用した学校支援の体制を構築する。</p> <p>→ 情報発信に関してはHPの充実などを次年度への課題にしたい。地域コーディネーターは教育活動にたいへん貢献している。</p> <p>⑤ 「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校（令和元・2年度）」の成果を生かした取組を継続する。</p> <p>→ SDGs に関する特別な授業を行ったり、各教科で取り上げたりするなど、学習を継続することで生徒の意識が定着している。</p> <p>⑥ 学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化を実現する。また、危機管理における教職員の対処能力を向上させる。</p> <p>→ 指導と評価の一体化は各教科に任せられるところが多いため校内で研修の場をもつ必要がある。危機管理は校内研修をしっかりと行えた。</p>
次年度の重点課題
<p>○人権尊重教育推進校（令和5・6年度）として、生命尊重の心情や態度、豊かな人間性を育むための学習や自己理解と他者理解を図るための学習などを通じ、人権教育を推進する。</p> <p>○言語活動を充実させ、対話的な学びの機会を多くもつことにより、思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>○令和6年度のコミュニティ・スクールの発足に向け、地域とともにある学校づくりのための土台を作る。</p> <p>○不登校生徒や学校に行きづらい生徒に対し、校内支援委員会を中心に一人一人に寄り添った指導を行っていく。</p>